

次世代経営研究会実施報告



経営者から見たIoT/AI/DX戦略と先端事例

事業部会経営委員会
次世代経営研究会運営委員会

1. はじめに

2022年2月15日(火)に「次世代経営研究会第6回定例会」をTeamsによるリモートの形式で開催した。参加者は関係者を含めて31名であった。

今回は一般社団法人情報処理学会・事務局長の木下泰三氏をお招きして、「経営者から見たIoT/AI/DX戦略と先端事例」の演題でご講演いただいた。

コロナ禍の影響で企業のDXはより一層加速が必要となってきているが、その戦略と適切な社内展開が問われている。その指針となるべく、IoT、ビッグデータ、AIの技術を活用した企業価値の向上とそれに伴うDX戦略を経営者の視点からご講演いただいた。主に各分野(センサ、ワイヤレス、エナジー、クラウド、AI)の先端技術、経営者の戦略事例、各業界(特に製造業など)の先端事例、業界における標準化やエコシステム、そして人材育成、などについて紹介いただき、さらに講演後にそれを受けてパネルディスカッションを行った。その概要を報告する。

2. 開会挨拶(品質工学会・会長 統計数理研究所・所長 椿広計)

第6回の次世代経営研究会ということで、木下泰三情報処理学会事務局長による「経営者から見たIoT/AI/DX戦略と先端事例」の講演に引き続き、パネルディスカッションでいろいろと議論したい。品質工学会は、田口玄一氏の方法論、統計を超えたデータ自体でものづくり、技術革新を行う、データサイエンスの中でも非常に先端的な部分として、世界

から注目されている。そのデータサイエンスの部分と、データを使って技術開発を加速する技術経営の部分がある。それから、品質ということを標榜しているが、品質経営やQuality Managementなどいろいろなものの融合体として品質工学会がある。

今日は、DX、AI、IoTがテーマである。これからそれらを、日本の産業界が効果的、効率的に使っていくことに待たないでであると思う。私の本務が統計数理であり、独立行政法人の情報システム研究機構は、学術や大学の研究能力を向上させるために設置されており、情報とシステムという立場から日本のデータサイエンスやAIを支える基盤機関に位置付けられる。産業界のためのDX/AIだけではなくて、われわれ研究者が悩んでいることは人づくりである。中央教育審議会の算数・数学の分科会で、小中高の算数・数学の指導要領の中にデータサイエンスを入れていこうと、この数年間、やってきた。中国では小学校・中学校の教科書にAIを入れてきている。大学では、内閣府・文部科学省・経済産業省が組んで、数理・データサイエンス・AI教育のプログラム認定事業を行っている。つまり大学に入学した人すべてが、数理・データサイエンス・AIといった今後のDX化に関する基礎的なりテラシーレベル、あるいは応用基礎レベルで、50万人とか25万人を対象にするとしている。そういうものを、全国の国立大学と私立大学は待たないで教育をしている。その上にエキスパートレベルがある。今後日本の生産性を増大させるための金の卵という人たを大学で作らないといけない、産業界で作らないといけない。私たち統計数理研究所、情報システム研究機構は、それを支える大学・大学院の教員の育